

病院名：がんセンター研究所

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2023年度実施する具体的な取組		2024年度実施する取組
			計画	結果	予定
基本方針1 県内の中核機関としての役割・機能の発揮	1-1	バイオバンク、重点プロジェクトを継続・発展させることで、更なる「総合がんセンター」機能の強化に取り組む。	バイオバンク事業の利活用推進、重点プロジェクトの中間評価結果の事業計画への反映により、総合がんセンター機能強化を図る。	バイオバンク事業の利活用が開始され利用、申請が増加した。重点プロジェクトの成果により、公的研究費や企業との共同研究費の獲得に繋がった。重点プロジェクトの外部評価は、第1期同様、中間年度でなく最終年度上半期に変更して実施し、次期事業計画に反映させることとした。	バイオバンクの外部からの利活用を開始する。上半期に重点プロジェクトの外部評価を実施する。
	1-2	病院・研究所の合同セミナーなどを通じて、病院医師の研究参加や病院との共同研究を促進し、更なるエビデンスの発出に取り組む。	合同セミナーを、実際に進行中の共同研究の状況や成果、新たな共同研究の提案などの発表の場に活用することで、共同研究の促進を図る。	病院研究所の共同研究を促進させるべく、成果の実際やバイオバンクの利用法などに関する合同セミナーを実施できた。	引き続き、同方針で合同セミナーを実施するなど、共同研究を促進していく。
	1-3	研究所発の成果を活用し、知財取得、企業のニーズ把握とマッチングによる共同研究開発推進、先進的臨床試験の支援を一元的に行うため、病院と協力して診断・治療の革新につながる橋渡し研究の推進体制の更なる整備に取り組む。	病院と協力して、臨床試験を計画、実施するとともに、橋渡し研究の支援体制について協議を始める。	研究所、病院が協力した臨床試験や治験の付随研究、全ゲノム等解析計画などを進めることができた。	治験、臨床試験、橋渡し研究の支援体制に関して、国立がん研究センターとの連携で強化できるよう病院と協力していく。
	1-4	研究所の持つ情報技術(IT)、人工知能(AI)などの情報解析技術基盤をがんセンター内で共有し、診断・治療の革新につながる異分野融合研究(病理や画像診断支援、治療効果や副作用予測など)に取り組む。	病院と協力し、AIを医療で活用する共同研究を推進する。	システム解析学分野を中心に、病院と協力し、AIを医療で活用する共同研究を推進できた。	2024年に山口分野長が大会長となり名古屋で開催される第6回日本メディカルAI学会学術集会を起爆剤に、さらにAIを医療で活用する病院や企業との共同研究を推進する。
	1-5	世界のがん研究の趨勢に対応して、柔軟な研究組織の再編などによる研究力の強化に取り組む。	研究所の分野構成のあり方について、医工連携など異分野融合や国際連携も含めた将来ビジョンを策定する。	名古屋大学と愛知県がんセンターの協定を結び、研究所に異分野融合の連携分野を置くことになった。 将来ビジョン策定前に、名古屋大学と愛知県がんセンターの協定を結び、研究所に異分野融合の連携分野を置くこと、MDアンダーソンがんセンターとの共同研究推進が決まった。	実際に、研究所に異分野融合の連携分野長を招聘する。 改めて将来ビジョン策定を行っていく。
	1-6	県内のがん診療連携拠点病院の院内がん登録情報などから得られるがん医療評価を、県内のがん診療の均てん化や集中化の実態把握と県内格差の是正のための施策提言につなげるとともに、医療機関がベンチマークとして活用できる体制づくりに取り組む。【重点】	県内のがん診療連携拠点病院の院内がん登録情報などから得られるがん医療評価結果をとりまとめ、各医療機関がベンチマークとして活用できるよう配布する。	県内のがん診療連携拠点病院の院内がん登録情報などから得られるがん医療評価結果を機関別に取りまとめた文書の更新版(2022年度データ、初版は2019年データで昨年度作成)を年度内に作成できた。今後配布を予定している。	県内のがん診療連携拠点病院の院内がん登録情報などから得られるがん医療評価結果を取りまとめた文書を継続的に更新するとともに、生存率等に関する情報も取りまとめる。
	1-7	県のがん対策・医療の統合的評価に関し、がん予防や罹患、治療成績、予後情報などに県民が容易にアクセスし活用できるよう、がんセンターのホームページなどを用いて情報発信する体制整備に取り組む。	がんセンターのホームページに愛知県がん診療連携協議会のページを作り愛知県のがん統計情報などを集約して掲載することにより、県民が容易に愛知県のがんの実態情報にアクセスできる体制を構築する。	がんセンターのホームページに愛知県がん診療連携協議会のページを作り愛知県のがん統計情報などを集約して掲載できるように整備できた。	実際に、ホームページに愛知県のがん統計情報などを集約して掲載する。

病院名：がんセンター研究所

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2023年度実施する具体的な取組		2024年度実施する取組
			計画	結果	予定
基本方針2 高度で良質な医療の提供とエビデンスの発出	2-1	試料、情報の提供に加えて、がんの新規診断・治療法の開発につながる橋渡し研究等の研究デザインについてもバイオバンク利用希望者からの相談に応じるなど、バイオバンク利活用の活性化に取り組む。【重点】	研究デザインからバイオバンク利用希望者からの相談に応じる、病院・研究所合同セミナーで研究例を報告するなどを通じ、バイオバンク利活用の活性化を図る。	研究デザインからバイオバンク利用希望者からの相談に応じるとともに、病院・研究所合同セミナーでバイオバンクを活用した研究例を報告できた。	外部からのバイオバンク利用希望者からの研究相談に応じるなど活動を広げる。
	2-2	国内屈指のがん予防研究拠点として、バイオバンクに試料と疫学・医療情報を蓄積する事業を継続・発展させるとともに、これらの利活用による病院や他の研究機関、企業とのがんの新規診断・治療法の開発につながる共同研究等を通じて、基礎的研究・橋渡し研究を含む個別の大型プロジェクトへの導出とエビデンスの発出に取り組む。	バイオバンクに試料と疫学・医療情報を蓄積する事業を継続し、利活用による共同研究例を増やす。	バイオバンク登録、蓄積情報・試料を用いたセンター内での共同研究での利活用が進んだ(2021年度分譲1件、2022年度分譲2件、2023年度分譲3件・審査中1件)。	外部からのバイオバンク利活用も進めて、共同研究獲得につなげる。
	2-3	重点プロジェクトでの基盤的な試料、情報、技術の蓄積を継続するとともに、データベース化によりがんセンター内での共有や利活用を加速し、分野横断的な共同研究並びに他の研究機関や企業との共同研究に発展させ、革新的ながんの診断・治療法の開発につながる新規の大型プロジェクトの立ち上げに取り組む。	国の主導する大型プロジェクトである全ゲノム解析等実行計画に参画することで、更に基盤的な試料、情報、技術の蓄積を図るとともに、センター内外との共同研究の可能性を検討する。	全ゲノム解析等実行計画の後ろ向き研究班に加え前向き研究班にも参画でき肺癌、消化器癌を中心に140件の試料それらの全ゲノム・全トランスクリプトーム情報、解析技術が蓄積できた。また、重点プロジェクトの成果により企業との共同研究も1件で研究費増額につながった。	全ゲノム解析等実行計画参画で得られた、全ゲノム・RNAシーケンスデータを含め、蓄積したデータを用いた研究成果の発出、共同研究の推進を行う。
	2-4	バイオバンクや重点プロジェクトの継続による基盤的ゲノム試料・情報収集の支援などにより、国内がん予防研究拠点を維持・発展させ、更なるエビデンスの発出に取り組む。	バイオバンクや重点プロジェクトを基盤とした試料・情報の利活用を推進するとともに、成果の発出に務める。	バイオバンクや重点プロジェクトを基盤とした試料・情報の利活用により、共同研究が進み(2021年度分譲1件、2022年度分譲2件、2023年度分譲3件・審査中1件)、科学研究費新規1件などの研究費獲得にも繋がった。	継続して、バイオバンクや重点プロジェクトを基盤とした試料・情報の利活用による共同研究推進に努める。
	2-5	他の研究機関や企業などとの共同研究を含め、がんの一次、二次予防などの先制医療の実現に資するエビデンスの蓄積や検診プログラム・ツールの開発と実用化に取り組む。	予防医療の実現に寄与するシースとしての各種エビデンスの蓄積・成果発出を行う。	アルコール代謝関連遺伝子のバリエーションとがん発症や遺伝性腫瘍の原因遺伝子のバリエーションと関連するがんのリスク解明など、予防医療に寄与するシースとしての各種エビデンスの蓄積・成果発出は行えた。	蓄積されたエビデンスのを検診プログラム・ツールの開発と実用化につなげる方略に関して病院や企業に働きかける。

病院名：がんセンター研究所

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2023年度実施する具体的な取組		2024年度実施する取組
			計画	結果	予定
基本方針3 県内の医療や研究の中心となる人材の育成	3-1	独創的かつ学術的、社会的インパクトの高い研究成果の発出促進のために、特に若手研究者が国際学術雑誌や国内外の学術学会で発表する機会の創出や支援に取り組む。	所内セミナーなど若手研究者の学術活動を活性化させるとともに、オンサイトでの開催に移行する学会での若手研究者の発表を各分野に促す。	若手研究者は積極的に成果発出を行い、高いインパクトの成果発表が多かった。しかし、円安の進行を含めて、国内外の旅費が高騰し、オンサイトでの学会参加の機会喪失に繋がっていることから、研究費で対応できるよう運用部と相談を進めた。	引き続き、運用部とも相談しながら、成果を発表しやすい環境・体制整備に努める。
	3-2	若手研究者の育成に向けて、名古屋大学の連携大学院としての積極的な大学院生受け入れや、包括連携を結ぶ愛知医科大学を含む他機関からの任意研修生受け入れの更なる強化に取り組む。	各分野に若手研究者の受け入れを促すとともに、研究所報告会での優秀演題の表彰など研究活動の活性化につながる取り組みを行う。	研究所報告会での優秀演題の表彰を行った。任意研修生や大学院生の受け入れも進めた。	若手研究者受け入れ数に関しては、目標が達成できておらず、引き続き受け入れを促進するよう研究所内で意思統一していく。
	3-3	新たな研究医の人材確保と育成のために、病院のレジデントと研究所のリサーチレジデントをシームレスにつないだ研究医育成コースなどの体制構築に取り組む。	研究医育成コースの可能性に関して、病院との協議を開始する。	病院レジデントの研究へのニーズが低く、また研究分野側が決まった期間でのリサーチレジデントの受け入れ枠をコース用に予め確保することが現状では困難なため、病院との研究医育成コースに関する協議を開始できなかった。	将来ビジョン策定の中で研究医育成コースの方向性や方略に関して検討した後、病院との協議を行う。
	3-4	研究員やリサーチレジデントのキャリア形成につなげるため、これを積極的に支援する体制構築に取り組む。	名古屋大学や愛知県立大学での学部・大学院講義の担当や学生の研究室配属による教育歴の確保、招聘セミナーなどを通じたキャリアパスを考える機会の提供を進める。	名古屋大学や愛知県立大学での学部・大学院講義の担当や学生の研究室配属による教育歴の確保、キャリアパスについての招聘セミナー開催ができた。	引き続き、教育歴の確保、キャリアパスを考える外部講師による講演などを行っていく。
	3-5	研究所に、ゲノム疫学研究や臨床との橋渡し研究の付随研究の国内研究拠点を整備することで、他機関と連携した研究資金の獲得を伴う大型プロジェクトの推進に取り組む。【重点】	全ゲノム解析等実行計画に関連する研究などへの積極的な参加やJ-MICC研究の拠点環境整備を推進する。	全ゲノム解析等実行計画の前向き研究拠点に選定され参加できた。また、J-MICC研究の拠点として大量のゲノムDNA検体の受け入れやバーコード管理システム構築など環境整備を進めた。いずれも、外部の公的研究費の獲得にも貢献できた。	テキサス大学MDアンダーソンがんセンターとの共同研究に取り組む。引き続き、全ゲノム解析等実行計画に関連する研究やその他の橋渡し研究への積極的な参加やJ-MICC研究の拠点環境整備を推進する。
基本方針4 取組の見える化	4-1	研究活動や成果、がん医療の未来への貢献などに関する発信力をより高めるために、ホームページ、SNS、公式YouTubeチャンネルでの動画配信などを活用して、幅広い層に対する情報発信に取り組む。【重点】	年間を通じて、がんセンターニュース、ホームページ、SNS、デジタルサイネージ、等を通じた、研究成果や研究者の活躍等の情報発信を行う。	年間を通じて、がんセンターニュース、ホームページ、SNS、デジタルサイネージ、等を通じた、研究成果や研究者の受賞等の情報発信を行った。	ホームページ、SNSを用いた情報発信にさらに力を入れていく。
	4-2	県民のがんやがん研究への理解の促進とともにバイオバンク事業・臨床研究などへの研究参加の意識を更に高めるために、高校・大学への出張講義、親子で参加できる実験体験、サイエンスカフェ、参加者のがん予防の意識向上を目的とした公開シンポジウム、がんサバイバーを招いたチャリティコンサートなど、多彩なアウトリーチ活動の企画と実施に取り組む。	COVID-19感染状況が見通せない中ではあるが、オンサイトの高校生実習を安全に開催し、オンデマンドの公開講座にも貢献する。	オンサイトの高校生実習を安全に開催でき過去最高の申込希望者を集めた。また、オンデマンドの公開講座も研究所が中心の回を担当した。	高校生実習、公開講座は引き続き行う。日本癌学会の市民公開講座を名古屋で研究所長が世話人として開催されることから、これに連動したアウトリーチ活動を行う。

病院名：がんセンター研究所

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2023年度実施する具体的な取組		2024年度実施する取組
			計画	結果	予定
基本方針5 持続可能な安定した経営基盤の確立	5-1	研究所や病院全体として新規研究領域の開拓や大型研究資金を獲得するために、がんセンター内の共同研究推進、試料・情報・技術リソースの共有化、情報解析のための国内計算機基盤（スーパーコンピュータ）の共同利用や教育の整備、研究分野横断的な共同研究の活性化に取り組む。	情報解析のための国内計算機基盤（スーパーコンピュータ）の共同利用や外部講師を招いての教育の整備を行う。また、臨床試験の付随研究等のために収集する試料を一時的に安全に保管する仕組みを研究所共通機器室に整備し、センター全体で研究推進や研究費獲得につなげる。	情報解析のための国内計算機基盤（スーパーコンピュータ）の共同利用推進はできたが、試料の保管システムはバイオバンクに限定された。しかし、分野のバーチャルな共通保管システムを利用することで、全ゲノム解析当実行計画研究に対応するなど、研究推進・研究費獲得はできた。	外部講師を招いてあるいは内部講師による情報教育の提供を行う。
	5-2	途切れることなく、最新のがん研究に必須となる高度精密機器の充実、整備と動物実験施設の充実・管理体制の強化に取り組む。【重点】	共通機器室や動物実験施設に必要な設備、備品の整備を継続する。特に、動物実験を止めないために、動物実験施設の設備・備品の老朽化への対応に重点的に取り組む。	動物実験施設の設備・備品の老朽化への対応に重点的に取り組んだ。	予算の限られる中でも、間接経費の効率的運用により、共通機器、動物実験室の整備を進める。
	5-3	外部研究費における間接経費の柔軟かつ計画的な運用を可能にし、共同利用機器の保守・修理、共同利用ソフトウェアや計算機環境の整備を含む基盤的な研究インフラ整備に取り組む。	間接経費の効率的運用により、センター内で共同利用可能なソフトウェアなどのソフトインフラ、動物実験施設の備品更新などのハードインフラを整備する。	間接経費の効率的運用により、センター内で共同利用可能なソフトウェアなどのソフトインフラ、動物実験施設の備品更新などのハードインフラを整備した。	継続して、間接経費の効率的運用によりソフト・ハードインフラ整備を進め研究環境の維持・向上を行う。
	5-4	がんセンターの機能を最大化するため、連携する名古屋大学などの、共同利用機器、研究のマッチング機能、知財関連の支援の活用により取り組む。	名古屋大学の質量分析装置などの共同利用機器利用や共同研究を推進する。	名古屋大学の質量分析装置などの共同利用機器利用や共同研究が増加した。名古屋大学と愛知県がんセンターの連携協定も結ばれた。	引き続き、共同利用機器の利用を進めるとともに、異分野融合領域への名古屋大学の教員のリクルートを進める。